

第2章 授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会

第1章で紹介した「授業評価に関するアンケート」の結果から、「よい授業」のための効果的な取組として期待されるのは、研修会、授業研究会、授業公開などである一方、授業研究会はあまり活発に行われていないことが明らかになりました。

そこで、総合教育センターでの研修を受講された先生方から、これまで経験した授業研究会についての印象を伺ったところ、次のような回答がありました。

- 授業者の反省の弁の後、参観者が一人ずつ感想や意見を述べていく形態が多く、形式的になりがちである。
- 参観者からの指摘が、時に指導案作成時に検討済みのことであっても、授業者に発言の機会がないと、「御指摘ごもっとも」と黙って聞いているしかなかった。
- 終わるとほっとするが、またやりたいとは思えなかった。
- 一人一人が教科の専門家だから、意見を述べるのは憚られる。
- 他の先生の授業は参考になるので見たいが、自分の授業は見せたくなかった。
- 研究授業や授業研究会は数年に一度のイベントで、気が重いものだった。

そこで、これらの問題点の多くを改善する手法として、よりよい授業づくりや教員同士の協働性を高めることができ、学校の活性化まで期待できる手法として全国的に注目を集めている、「ワークショップ型授業研究会」を紹介します。

1 ワークショップ型授業研究会Q & A

ここでは、授業リフレクションの手法を取り入れたワークショップ型授業研究会について、Q & A形式で紹介します。

Q 1 「授業リフレクション」とは何ですか？

A 1 授業者が、他者との対話を通して自分の授業を振り返る手法のことです。

Q 2 「ワークショップ」(workshop) とは何ですか？

A 2 本来は「作業場」や「工房」を意味する語です。ここでは「体験型の講座」を指します。

Q 3 どのように授業を観察するのですか？

A 3 参観者は生徒の顔の見える位置に立ち、生徒の表情や動き、思考する様子、つぶやきなどを観察し、気付いたことを2色の付箋に書き込んでいきます。
(詳細は ➡ 8 ページ)

Q 4 なぜ付箋を使うのですか？

A 4 記憶に頼って話し合うのではなく、生徒を観察して気付いた事実を付箋に記録しておくことで、事実に基づいて、短時間で活発に対話することができるからです。
(詳細は ➡ 8 ページ、10～14 ページ)

Q 5 参観者が心掛けることはありますか？

A 5 授業者の持ち味を尊重し、参考になる点を見出して、そこから学ぼうとする姿勢が大切です。

(詳細は ➡ 9 ページ)

Q 6 どのように授業研究会を進めるのですか？

A 6 プロンプター（進行役）の進行に従って、付箋を模造紙に貼り出しながら、授業者への質疑を重ねていきます。

(詳細は ➡ 10～11ページ)

Q 7 プロンプター（進行役）は誰にでも務めることができますか？

A 7 授業者を共感的に理解するように心掛ければ、誰にでもできます。ただ、進行のコツがつかめるまでは、後述する進行の仕方（例）を参考にするとよいでしょう。慣れてくれば、より自然に進行できるようになります。

※総合教育センター研究調査部では、校内研修にプロンプター役の講師を派遣することも可能です。御要望の際は御相談ください。

(詳細は ➡ 9～11ページ)

Q 8 授業研究会に時間がかかり過ぎませんか？

A 8 参観者の数や、書かれた付箋の数にもよりますが、5～6人の参観者が書いた付箋をすべて話題として取り上げると、90分程度を要するでしょう。

しかし、話題を絞って協議すれば、45分程度でもできます。

(詳細は ➡ 12～14ページ)

Q 9 指導案を作成しなければなりませんか？

A 9 指導案を作成することで構想が練り上げられるので、作成した方がよいでしょうが、校内研修における研究授業では、授業のねらいや展開を簡単に示した略案でもよいでしょう。場合によっては指導案なしでもよいでしょうが、その場合でも、授業のねらいを授業前に参観者に伝えて、理解しておいてもらいましょう。

Q 10 なぜ、授業研究会をワークショップ型で実施したり、授業リフレクションの手法を取り入れたりすると良いのですか？

A 10 それらによって、次のような成果が期待できるからです。

○付箋に書いたことを出し合って協議するため、参観者全員に何度も発言の機会があり、授業研究会に全員の声が反映されます。

○色別の付箋を模造紙に貼り出したり、それをグルーピングしたりすることで、授業の良い点や改善点が構造的に明らかになります。

○対話を通して授業を振り返ることで、授業者にも参観者にも学びが生まれます。

(授業研究会の参観者の声 ➡ 14ページ)

2 研究授業における「授業観察」の方法

準備するもの

①付箋（75mm×75mm） 2色×各10～15枚×参加者分

*付箋は大きい方が、大きい文字で書きやすく、貼り出した際に見やすい。

②サインペン（中字または太字）×参加者分

*付箋を貼り出した際に、細字だと文字が読みにくい。
ようせんばさみ

③用箋挟（クリップボード）×参加者分

④模造紙 1枚

⑤セロハンテープ

授業前に参加者に配る。

授業研究の際に、机または黒板などに貼る。

（1）観察の対象…特定または不特定の生徒

（2）観察する内容…生徒の表情や動き、思考する様子、つぶやきなど

（3）観察する位置…教室の前や横（教室後方では観察しにくい。参観者用の椅子は不要。）

（4）記録方法

①ビデオカメラ *必要に応じて、授業場面を振り返る際に利用する。

②付箋を利用した授業観察

記録の例

青の付箋

（学びが成立している点、参考になる点）

2:13

先生が具体例を示したところ、佐藤君は表情が明るくなって、熱心にワークシートに取り組み始めた。

ピンクの付箋

（気になったこと、授業者に聞きたいこと）

2:35

鈴木さんの発言の直後、先生が「他に？」と皆に問いかけたのはなぜ？

その他の記入例

- ・生徒の表情が明るくなった。
- ・話し合いが活発になった。
- ・適切な助言で生徒の理解を助けた。
- ・高橋さんが懸命に考えている。

- ・発問しておきながら、先生がすぐに説明してしまったのはなぜ？
- ・木村君が〇〇とつぶやいていた。
- ・思考が停滞して、うつむいている。

留意点

*時間を記録する。

*授業を観ながら、気付いたことをその場で書く。

*大きめの字で簡潔に書く。

*1枚の付箋に一つの項目だけ書く。

*何枚でもたくさん書く。

*付箋は2色あれば何色でもよい。ただし、授業前に使い分けを観察者に伝えておく。

3 授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会の進め方

(1) 参観者が心がけること

①プロンプター（進行役）

- 参観者全員に対して発言を促します。
- 常に生徒のことを話題にします。
- プロンプターは、授業者が生徒の「学びの姿」を見取って考え、意思決定した過程を明らかにするように、授業者と参観者に質問しながら授業の流れを検証していきます。
- 話題を掘り下げたい場合は、繰り返し質問して検証します。
- 授業を通して授業者や参観者が学んだことや気になるところを、キーワードを用いて集約します。

②授業者

- プロンプター（進行役）や参観者からの質問に対し、指導内容を振り返って回答します。
- 話し合いの最後に、研究授業及び授業研究会を経て学んだこと、今後に生かしたいことなどを振り返って述べます。

③参観者

- 授業者の存在を批判せずに受け入れ、授業者の言葉に耳を傾けます。参観者の意識の中に、授業者に教えようとする意識があると、授業者は心を閉ざしてしまい、授業研究会が頓挫しかねません。
- 肯定的な発言によって授業者の内面を引き出すように心がけます。
- 授業者の言葉にうなずき、あいづちをうち、授業者の言わんとすることを要約したり、授業者の思いを汲んで言葉で表したりします。
- 話し合いの最後に、参観者自身が、授業の観察や討議に参加して学んだこと、気付いたこと、自分の授業に生かしたいことなどを述べます。
- 授業者が見取れなかった生徒の様子（真剣に取り組んでいた姿、リーダーシップを発揮していた姿など）を授業者に伝えます。

【授業研究のポイント】

- ★授業を観察した先生が、授業者の指導技術や教材観だけを話題にしていると、授業者個人の評価になりがちです。参加者全員が授業から学ぶためには、そこから一歩踏み出して、授業者の指導で生徒がどう変わったかということと一緒に振り返り、自分の指導に生かすことが大切です。
- ★授業には唯一絶対の正解などありません。正解を一つに求めずに、具体的な事実を通して話し合い、多様な見方や考え方を共有し合うことが大切です。授業研究会を、授業者の成長を支援する場、参観者の成長を促進する場、教員同士が学び合い育ち合う場にすることが大切です。

(2) プロンプターの進行の仕方(例)

①授業者の自己リフレクション(5分程度)

授業者に、「授業のねらい」、授業の中で起きた「迷い」や「不安」、「驚き」、「方針を変更したこととその理由」などを、自由に語ってもらいます。

- ◆〇〇先生、最初に、今日の「授業のねらい」と、授業に対する「思い」についてお話してください。
 - ◆授業を振り返って、授業の中で起きた先生自身の「迷い」や「不安」、「驚き」、などありましたか。
 - ◆当初構想していた授業の展開を、授業中に変更したことはありましたか。その場合は、変更した理由についてもお話してください。
 - ◆〇〇先生から、今日の授業に関して、参観された先生方に特に意見を聞いてみたいことはありませんか。
- ※聞いてみたいことがある場合は、それらを協議の中心にする。
- ◆〇〇先生から出されたことに関して、皆さんと一緒に考えていきましょう。

②グループリフレクション(45分～90分程度)

参観者が主に見てきた生徒が、どの場面で学んでいたのか、どの場面ですまづいていたのかを、参加者全員で話し合い、授業の振り返りをします。その際、授業者の意見を聞きながら、授業者の意図を共感的に理解しようと努めるようにします。授業を観察して学んだことを掘り下げて話し合う必要が生じるかも知れません。

最初の発言では、プロンプターが授業の良かった点を指摘し、どのような計画のものの指導であったか、どのような配慮のものの言葉かけであったかというようなことを授業者に尋ねます。

- ◆〇〇さんが、□□に熱心に取り組んでいたのは、先生の言葉かけが良かったからでしょうね。あの場面で、先生は何を思って、あの言葉かけをしたのですか。
- (授業者) それは、……
- ◆それでは、授業を観察した先生方から、授業中に気付いたことを中心に話し合ってください、協議を深めていきましょう。
 - ◆最初に、授業を観察して参考になったことや生徒の様子について、ぜひ授業者の〇〇先生にお伝えしたいことなどがありましたら、付箋を貼りながらお話してください。時系列に出して行きますので、導入の部分について何かありましたら、どなたかお話してください。
- ※出ないようだったら、指名して発表してもらおう。
- ※導入の部分で特に気付いた事や授業者に伝えたいことなどがなかったら、その他の展開の部分でもいいので発表してもらおう。
- ◆〇〇先生から……という気付きについてお話がありましたが、同じように見取った先生はいらっしゃいませんか。

※同じように見取った先生の一人一人に感想や意見を述べてもらう。

◆では次に、気になったことやぜひ授業者に聞いてみたいことがありましたら、付箋を貼って、授業者に質問してください。

※これもできるだけ、時系列にそって出してもらう。

※出ないようだったら、指名して発表してもらう。

◆同じような疑問や質問をおもちの方も付箋を貼ってください。

※付箋が集中する部分があったら、その理由を考える。授業者が応えた内容について、さらに聞いてみたいことが出てきたら、そこをさらに掘り下げる。ただし、問いただすのではないことに留意する。

※授業者自身の「迷い」や「不安」、「驚き」について、それらの理由を再度聞いてもよい。

※授業者から参観者の意見を聞きたいということがあったら、参観者に話してもらう。

◎展開、まとめの順に進めていき、付箋が出し尽くされたら、最後の振り返りを行う。

◆〇〇先生、本日の研究授業と授業研究で学んだことや、今後の授業に生かしたいことをお話してください。

◆最後に、参観者の先生方も、本日の研究授業と授業研究会で学んだことや、今後の授業に生かしたいことをお話してください。

※授業者にとって役立つ授業研究会にすることが大切なので、締めくくりにして「振り返りカード」などに感想を書いてもらい、授業者に渡してもよい。

*ここでは、時系列に従って付箋を出しながら話し合う場合の例を示しました。別のパターンで話し合う場合は、これを参考にしてアレンジしてください。

振り返りカードの例

() 先生へ 記入者 ()
研究授業と授業研究で学んだことや、今後の授業に生かしたいこと

